

授業科目	発声・発語・嚥下評価学	S63118	単 位	2単位（60）
開講学科等	言語療法学科 4年次 <前期集中>			
担当教員	上松 智幸・稲田 勤・吉村 知佐子・光内 梨佐	実務経験のある教員 による授業科目	○	
授業の目標	言語聴覚障害についての理解を深め、検査法、記録法、評価および訓練の知識と技術を習得する。			
授業の主題・ あらまし	臨床実習における症例報告書の書き方について学習する。			
授 業 の 内 容				担当教員
授 業 の 計 画	1	小児領域の言語聴覚療法について	稲田	
	2	小児領域の言語聴覚療法における症例報告書作成について①	稲田	
	3	小児領域の言語聴覚療法における症例報告書作成について②	稲田	
	4	小児領域の言語聴覚療法における症例報告書作成について③	稲田	
	5	小児領域の言語聴覚療法における症例報告書作成について④	稲田	
	6	小児領域の言語聴覚療法における症例報告書作成について⑤	稲田	
	7	小児領域の言語聴覚療法における症例報告書作成について⑥	稲田	
	8	小児領域の言語聴覚療法における症例報告書作成について⑦	稲田	
	9	小児領域の言語聴覚療法における症例報告書作成について⑧	吉村	
	10	小児領域の言語聴覚療法における症例報告書作成について⑨	吉村	
	11	小児領域の言語聴覚療法における症例報告書作成について⑩	吉村	
	12	小児領域の言語聴覚療法における症例報告書作成について⑪	吉村	
	13	小児領域の言語聴覚療法における症例報告書作成について⑫	吉村	
	14	小児領域の言語聴覚療法における症例報告書作成について⑬	吉村	
	15	小児領域の言語聴覚療法における症例報告書作成について⑭	吉村	
	16	成人領域の言語聴覚療法について	上松	
	17	成人領域の言語聴覚療法における症例報告書作成について①	上松	
	18	成人領域の言語聴覚療法における症例報告書作成について②	上松	
	19	成人領域の言語聴覚療法における症例報告書作成について③	上松	
	20	成人領域の言語聴覚療法における症例報告書作成について④	上松	
	21	成人領域の言語聴覚療法における症例報告書作成について⑤	上松	
	22	成人領域の言語聴覚療法における症例報告書作成について⑥	上松	
	23	成人領域の言語聴覚療法における症例報告書作成について⑦	光内	
	24	成人領域の言語聴覚療法における症例報告書作成について⑧	光内	
	25	成人領域の言語聴覚療法における症例報告書作成について⑨	光内	
	26	成人領域の言語聴覚療法における症例報告書作成について⑩	光内	
	27	成人領域の言語聴覚療法における症例報告書作成について⑪	光内	
	28	成人領域の言語聴覚療法における症例報告書作成について⑫	光内	
	29	成人領域の言語聴覚療法における症例報告書作成について⑬	光内	
	30	成人領域の言語聴覚療法における症例報告書作成について⑭	光内	
授業の方法	講義			
テキスト	廣瀬肇監修 『言語聴覚士テキスト 第3版』 医歯薬出版 日本高次脳機能障害学会著 『標準失語症検査マニュアル』 新興医学出版社			
参考文献	必要に応じて紹介する。			
評価方法	レポート（100%）			
履修上の 注意事項				

授 業 科 目	臨床実習	S63124	単 位	14 単位 (630)
開講学科等	言語療法学科 4 年次 <前期>			
担 当 教 員	櫻木 理恵・池 聡・上松 智幸・武内 和弘・石川 裕治 稲田 勤・吉村 知佐子・光内 梨佐	実務経験のある教 員による授業科目	○	
授業の目標	臨床現場において、言語聴覚士として必要な知識・技術について学ぶとともに、言語聴覚士に必要な知識の習得を目指す。			
授業の主題・ あらまし	3 年次の臨床見学実習に引き続き、言語聴覚法に必要な評価・訓練について学ぶとともに、実習前の学習面についての確認を行う。			
授 業 の 計 画	1. オリエンテーション 2. 実習対策 3. 筆記・口頭試問・実技試験 4. 臨床実習 (I 期・II 期) 5. 書類提出			
授業の方法	実習 その他			
テキスト				
参考文献				
評価方法	評価票 (50%) ・筆記試験 (30%) ・口頭試問 (10%) ・実技試験 (10%)			
履修上の 注意事項				

授 業 科 目	言語聴覚療法学総合演習	S64104	単 位	1 単 位 (3 0)
開講学科等	言語療法学科 4 年次 <集中>			
担 当 教 員	池 聡・上松 智幸・吉村 知佐子・光内 梨佐	実務経験のある教員による授業科目	○	
授業の目標	国家試験対策の一環として、言語聴覚療法に必要な知識の習得を目指す。			
授業の主題・あらまし	講義形式にて国家試験に必要な専門基礎分野、専門分野の知識を習得する。			
授 業 の 内 容				担当教員
授 業 の 計 画	1	解剖学・生理学・内科学	吉村	
	2	音声学	吉村	
	3	呼吸・発声・発語系医学	吉村	
	4	構音障害学	池	
	5	音声障害学	光内	
	6	臨床神経学	上松	
	7	失語症	光内	
	8	高次脳機能障害学	光内	
	9	言語発達学	光内	
	10	言語発達障害学 ①	上松	
	11	言語発達障害学 ②	上松	
	12	聴覚系医学	池	
	13	聴覚障害学 (検査)	池	
	14	嚥下障害学	上松	
	15	臨床心理学・認知心理学	池	
授業の方法	講義 演習			
テキスト	大森孝一他 編 『言語聴覚士テキスト 第3版』 医歯薬出版 『2021年版 言語聴覚士国家試験過去問3年間の解答と解説』 太揚社 平野哲雄他 『言語聴覚療法 臨床マニュアル 改定第3版』 医歯薬出版			
参考文献				
評価方法	筆記試験 (100%)			
履修上の 注意事項	『2021年新版 言語聴覚士国家試験過去問3年間の解答と解説』は、販売時期の都合上、後期に追加購入となります。			

授 業 科 目	卒業研究	S64112	単 位	1 単 位 (3 0)
開講学科等	言語療法学科 4 年次 <集中>			
担 当 教 員	山本 双一・池 聡・上松 智幸・武内 和弘・石川 裕治 稲田 勤・光内 梨佐	実務経験のある教員 による授業科目	○	
授業の目標	言語聴覚療法に関する修学の総まとめとして研究発表を行い、論文にまとめる。			
授業の主題・ あらまし	テーマにあわせて教員が担当し、少数のグループに分かれて実施する。			
授 業 の 内 容				
授 業 の 計 画	1	論文作成①		
	2	論文作成②		
	3	論文作成③		
	4	論文作成④		
	5	論文作成⑤		
	6	発表準備①		
	7	発表準備②		
	8	発表準備③		
	9	最終発表①		
	10	最終発表②		
	11	論文修正①		
	12	論文修正②		
	13	論文修正③		
	14	製本準備①		
	15	製本準備②		
授業の方法	ゼミナール方式			
テキスト				
参考文献				
評価方法	プレゼンテーション (50%)、提出物 (50%)			
履修上の 注意事項				